

其の五

もったいないの心得

地球の資源は無尽蔵にあるわけではありません。限りある資源を大切に使い、社会の発展を持続させていくための基本的な心得を伝授します。

知っておきたい用語解説



持続可能な社会

環境を壊さず社会の発展性を維持していき、バランスの取れた社会を目指そうという考え方です。これまで私たちは様々な資源やエネルギーを活用して、経済の発展と豊かな暮らしを追求してきました。しかし地球上の資源には限りがあります。このままでは、私たちの暮らしを支える資源は枯渇してしまいます。また、石油などの化石燃料を燃やすと二酸化炭素を排出し、これが地球を暖める温室効果ガスとして地球温暖化を引き起こす原因と考えられています。さらに、物を簡単に捨ててしまうなど、資源の無駄づかいやごみ問題が環境へ悪影響を及ぼしています。一方で、資源やエネルギーを極端に制限してしまうと、私たちの暮らしは成り立たなくなり、経済の発展は難しくなります。そこで、これまで私たちが豊かな暮らしのみを追求してきたことを反省し、限りある資源を有効に活用しながら、環境と調和の取れた社会の発展を目指そうと生まれたのが「持続可能な社会」という考え方です。

循環型社会

限りある資源を持続可能な形で循環させながら利用していく社会のことです。私たちはいま豊富な物に囲まれた快適な生活をしています。しかしそのような快適な生活が、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を生み出してしまいました。このままでは日本はごみであふれてしまいます。そこで、このような社会のあり方を根本的に変えて、地球から採取する資源をできるだけ少なくし、リサイクルなどを進めて有効に使うことで、廃棄されるものを最小限におさえる社会へ変えていこうというのが「循環型社会」という考え方です。このような社会を実現していくためには、国や企業だけではなく、私たち一人ひとりが自分の生活を見直す必要があります。できるかぎり無駄な商品は買わない、ひとつのものを長く使うことで、生産や消費を抑えてごみを減らす、廃棄処分する場合には分別を行い、再生できるものは資源として再利用するなど、まずできることから始めることが大切です。

食品ロス

最近ニュースなどでもよく目にする「食品ロス」は、まだ食べられるのに捨てられている食品のことです。世界的な問題であり、日本でも年間約464万tの食品ロスが発生しています。日本国民1人当たり換算すると、毎日おにぎり約1個分(約102g)に近い量のご飯を捨てている計算です。買い物をするときは使い切れる分だけ購入したり、外食の際は食べきれない量を注文するなど「モッタナイ」を意識して、日々の生活の中でできることを一人一人が考え、行動に移すことが大切です。

3R

私たちが日常生活で消費するさまざまな製品は、つくるときも、ごみとして処分されるときも、限りある資源やエネルギーを大量に使い、環境に負荷を与えています。そこで最近ではみんなが「物の使い捨ては環境にやさしくない」ということに気づき、ごみを減らし、環境に配慮した生活をしようとしています。そんなエコライフを実践するためのキーワードが、「Reduce (リデュース) ごみの発生を減らす」「Reuse (リユース) 繰り返し使う、再利用する」「Recycle (リサイクル) 資源として再び利用する」の3つの頭文字をとった「3R (スリーアール)」という考え方です。

エコライフのためのキーワード

| | | |
|---------------|--------------|----------------|
| Reduce | Reuse | Recycle |
| リデュース | リユース | リサイクル |
| ごみを減らす | 繰り返し使う | 資源として活用する |

海洋プラスチックごみ問題

プラスチックは軽くて加工しやすく丈夫なことから、私たちの生活のいろいろなところで使われていますが、生ごみや紙と違い、どんなに小さくても、分解されずに自然界に長くとどまり続けます。ポイ捨てや屋外に放置されたプラスチックごみが雨風により河川を通じて海に流れ出ること、海を汚し、生き物たちが傷つけられ、漁業に被害を与えるなどの問題を起こしています。プラスチックを全く使わずに生活することは難しいですが、まずは使い捨て(ワンウェイ)プラスチックをなるべく使わないなど、できることから始めてみませんか。

1人1日 17グラムの減量に挑戦!

仙台市では、ごみの減量とリサイクルを進めるための目標を設定し、市民の皆さんにごみの減量と分別を呼び掛けています。皆さんが出す家庭ごみは、1人1日400g以下が目標です。令和6年度は1人1日当たり417gだったので、皆さん一人ひとりが1日17gずつ減らすことが、目標達成のカギです。おやつに食べたお菓子の紙箱やプラスチックの容器・包装を、「雑がみ」や「プラスチック資源」に分別したり、食事を残さず食べるなど、毎日の小さな積み重ねが大きな力になります。あなたも友達や家族と一緒に、ごみ減量に取り組んでみませんか?

ごみ減量・リサイクル推進キャンペーンキャラクター ワケルくん



分別が足りぬ。「捨てればごみ、分ければ資源」を心がけ、もっと環境を大切にしようのじゃ!





其の六

消費で世直しの心得

消費が社会を動かす力を自覚し、消費を通じてよりよい社会を築いていくための基本的な心得を伝授します。

知っておきたい用語解説

消費者市民社会

消費が社会に与える影響力を自覚し、その力を使って、社会をよりよい方向に変えていこうという考えです。私たちが何かを購入することは、それがいいという意思表示であり、それを提供している事業者を選択したとも言えます。これは自分の意志を表明する「投票」と似ています。投票が集まった商品は、さらに生産されるようになり、次にどのような商品が作られるかに影響を与えます。つまり、私たちの消費行動は、社会を動かす力を持っているのです。あなたの使うお金には、誰かを幸せにする力があります。例えば、環境に配慮した商品を選ぶことは地球環境を考える企業を育て、地元で採れた野菜を買うことは、地元の農家を応援することにつながります。このように、私たちの消費行動によって、社会がよりよい方向に改善されていくのです。そのためには、私たち消費者一人ひとりが、自分の幸福だけでなく、家族や地域、地球全体のことにも意識を向けた消費行動をすることが大切です。

フェアトレード

日本では開発途上国で生産された日用品や食品を安価で買うことができますが、その商品を生み出すために、現地の生産者への支払いや労働者の賃金が低く抑えられていたり、小さな子が学校にも行けずに働かなければならなかったりという問題が起っています。買う側には見えませんが、安さを維持するために、最も弱い立場の人たちが不当な扱いを受けている現実もあるのです。「フェアトレード(公平貿易)」とは、そういった状況を改善するために、途上国で作られたものを、適正な価格で継続的に取引することによって、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善を目指すという取り組みです。



国際フェアトレード認証ラベル

エシカル消費

人や社会・環境に配慮して消費する行動を「エシカル(倫理的)消費」といいます。環境に配慮する「エコ消費」、開発途上国を支援する「フェアトレード」、地域活性化につながる「地産地消」など、お金の使い方によって社会を良い方向に変えていこうとする考えです。東日本大震災をきっかけに、買い物によって被災地を支援する「応援消費」への関心が広がりました。これもエシカル消費のひとつです。誰によってどのように作られたのかということや、消費するだけでなく生産から廃棄までの過程にも目を向け、考えて商品を選択することが消費者市民社会にもつながります。

SDGs

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)のことです。「誰一人取り残さない」という理念のもと、経済、社会環境をめぐるさまざまな課題に国際社会全体で取り組むため、2030年の達成を目指して17の目標と169のターゲットが定められています。消費生活に関連する「目標12 つくる責任 つかう責任」では、資源を無駄にしないこと、廃棄物の削減・再利用・再生利用を進めること、食品ロスを削減することなどに取り組んでいます。「エシカル消費」もSDGsの達成に役立つ消費行動です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



消費者教育推進法

学校や社会で消費者教育を行うことを国や自治体の責務とし、消費者が消費行動を通して、社会の発展と改善に積極的に参加していく「消費者市民社会」を推し進めていこうという理念を掲げています。

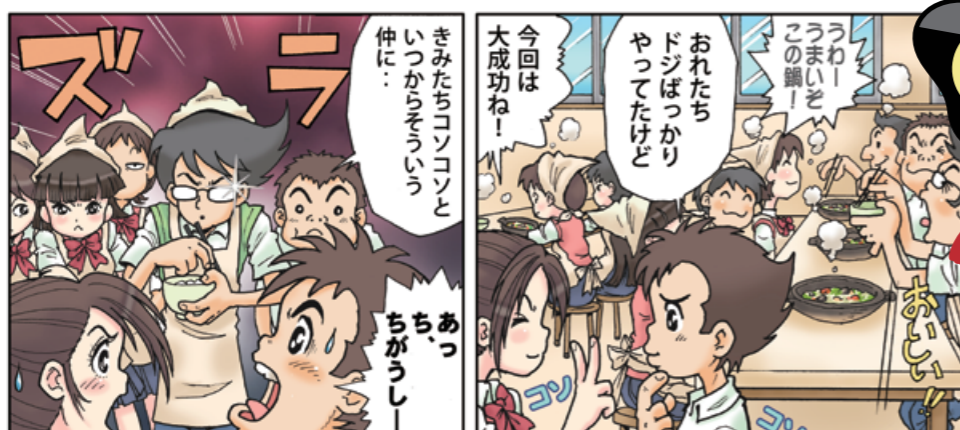
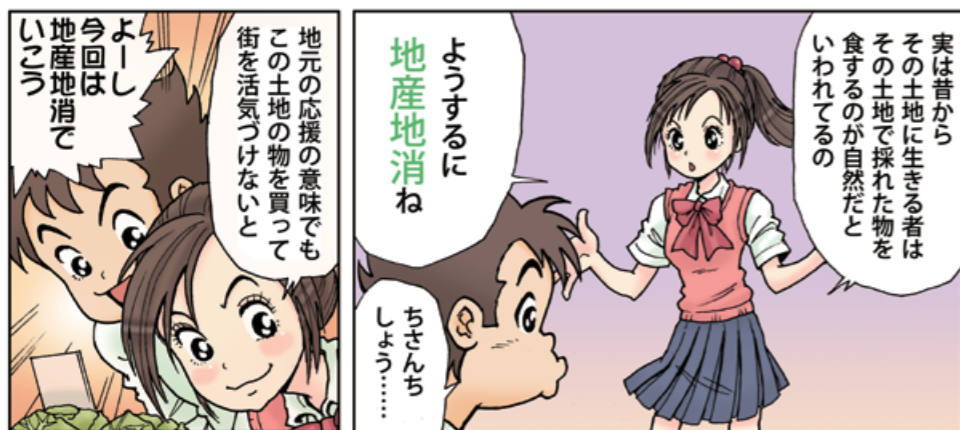
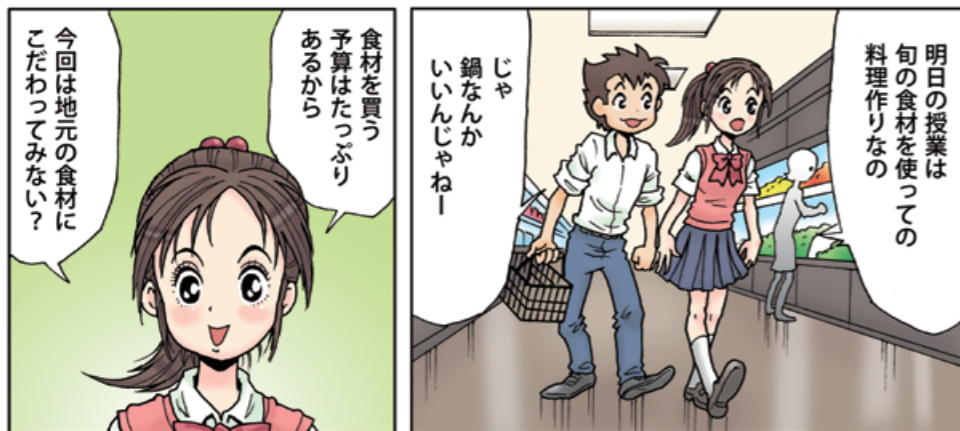
フードマイレージ

食料を輸送するためには、燃料(エネルギー)が必要です。そこで食料を輸入してから、消費者の口に入るまでに、どれくらいの距離を運ばれてきたのかを数字で表したのが「フードマイレージ」です。主に輸入食料に応用され、日本は他の国に比べると極めて高い数値を示しています。これは、日本で大量に消費される大豆や小麦、飼料などが、遠く離れたアメリカなどの諸外国から多く輸入されているためです。そこでこれからは、国内の食料の自給率を高め、なるべく近くで生産された食料を食べることで、輸送に必要なエネルギーや、燃料の消費に伴う環境負荷を減らすことが必要だと考えられています。

地産地消

「地産地消(ちさんちしょう)」とは、その地域で作られた農産物・水産物を、なるべくその地域で消費しようという考えです。上で説明したフードマイレージを削減することで、エネルギーの無駄づかいによる環境への負荷を減らせるだけでなく、食料自給率のアップにもつながると期待されています。ほかにも、消費者と生産者の距離が近いので、旬の食べ物が新鮮なうちに食べられる、地域に対する愛着が深まり、その土地の食材や食文化に対する関心が高まる、地域で頑張っている生産者への応援になる…といった様々なメリットが考えられます。

消費とはその商品への「投票」じゃ。どのような社会を望むか？ 即ちそれが商品選びにも関わってくるのじゃー！



伊達なくらし十箇条

- 一、「契約」とは武士の「約束」と心得よ。
- 一、怪しいサイトには近寄るべからず。
- 一、怪しいメールは開くべからず。
- 一、身に覚えのない一方的な請求は無視すべし。
- 一、連絡も取るべからず。
- 一、フィルタリングで守りを固めよ。
- 一、個人情報の扱いには用心すべし。
- 一、「タダより高いものはない」。おいしい話には裏がある。
- 一、怪しい誘いは断る勇気を持つべし。
- 一、一人で悩まず、親か先生、
仙台市消費生活センターに相談すべし。
- 一、足るを知り、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を心がけよ。
- 一、消費の力を賢く使い、よりよい天下を築くべし。

消費者教育ウェブ教材 「伊達学園」も見てみよう！

「伊達学園」では、年代ごとの学習コンテンツで消費者トラブルの対処法などを学べます。
DVD「伊達な暮らしをいざ伝授!伊達塾」も掲載しています。



伊達学園 仙台 検索

消費者教育講座 (学校への出前講座) を実施しています！

仙台市消費生活センターでは、市内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒、大学・専門学校等の学生や保護者を対象に、消費者教育に関する出前講座を実施しています。専門の講師による授業となります。

講師 弁護士、司法書士、J-FLEC講師、
e-ネットキャラバン講師、消費生活相談員など

テーマ ① 契約の基礎知識 ② 金銭・金融教育
③ インターネットトラブルの被害にあわないために
④ 悪質商法の被害にあわないために

申し込み方法 実施日の2か月前までにオンライン申請または「仙台市消費者教育講座申込書」に必要事項を記入してFAXでお申し込みください。(申込書はホームページからダウンロードできます)

詳しくはこちら



動画で学ぼう！ 仙台市消費生活センター YouTubeチャンネル

相談が多く寄せられている消費者トラブル事例を紹介したアニメーション動画や、消費者教育ウェブ教材「伊達学園」の紹介動画などを配信しています。ぜひご覧ください！



▲「ちょっと待って!」



▲「定期購入のトラブル」



▲「伊達学園のススメ」

困ったときは、ひとりで悩まず早めに相談！

仙台市消費生活センター

〒980-8555 仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル(三越定禅寺通り館)5階
TEL.022-268-7040 FAX.022-268-8309

仙台市消費生活相談ダイヤル 022-268-7867
消費者ホットライン 188 (局番不要)

協力：仙台市教育委員会

